



— チェルノブイリに思いをよせて —

# ポレーシェ

期待高まる

## ホットスポットファインダー

(とどけ鳥 小林 岳紀)

今年の5月末、(株)ラッシュ・ジャパンの助成金により、(GPS 連動型空間線量率自動記録システム)「ホットスポットファインダー」を導入することができました。

これは、放射線量の測定値と GPS による位置情報のデータをセットにして、無線でパソコンに送信できるシステムです。計測キットを携帯して、測定したい場所を移動



<南相馬市小高区の東町公園の測定マップ(とどけ鳥ブログより)>

すれば、一定時間毎 (例えば 10 秒毎) に計測データがパソコンに蓄積されます。持ち帰ったデータは、地図 (たとえばグーグルの航空写真) 上に、空間線量率の数値をプロットすることができるのです。

さっそく先月から、南相馬市内にある公園などの測定を開始しました。今後、帰還を希望する市民の皆様からの依頼を受けて、住宅内や庭などの空間線量率を測定し、詳しいデータをビジュアルに提供できればと考えています。この計測機の名称は、「ホットスポットファインダー」といいますが、これは、ホットスポット (局部的に放射能の高い所) を探すことが目的ではなく、地域内のすみずみまで線量を把握することにより、私たちの生活圏の安全・安心を、自分の目で確かめる道具です。皆さまの測定依頼を、お待ちしております。



<計測キット>

〒460-0012 名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33 ST プラザ鶴舞 5 階 B

### NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行 名：三菱東京 UFJ 銀行 名古屋営業部 (店番号 150)

口座番号：普通 6949211

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 原 富男

郵便振替：00880-7-108610

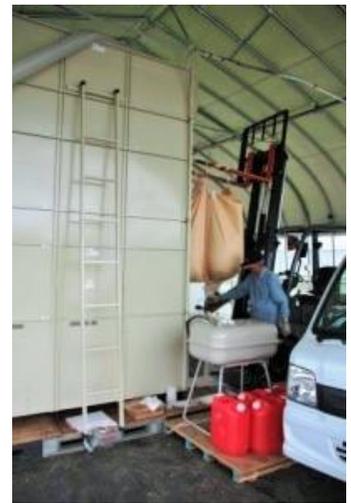
TEL / Fax：052-228-6813 (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

## 南相馬市だより

(神谷 俊尚)

☆とどけ鳥事務所内は、6月下旬から始まった菜種収穫（21カ所の畑）で採取した検体で溢れかえり、6部位（土壌・根・莖・菜種・油・絞り滓）の測定におおわらわです（P7参照）。油は、まず菜種を十分に乾燥（水分8%前後）させる必要があります、事務所内では梅雨時期のため、終日乾燥機がうなり続けています。乾燥したら搾油、2～3日かけて不純物の沈殿を待ち、濾過作業に移ります。濾過作業は、ペーパーフィルターを2枚重ねて濾過を3回行います。そうしてようやく完成検体として測定を行います。（商品の「油菜ちゃん」も、工場では機械が大型と言うだけで、同じ工程を踏んでいます。）全ての油の測定が終了するのは7月末頃になりそうです。次号で全体の傾向を報告します。



<今年導入することができたビニールハウスと乾燥機>

GPS測定器による公園の定期的測定も、今月から開始しました。

この機器を利用し、帰還を希望する家族に対し、庭・家屋内の詳しい部分的測定の開始も準備し行っていく予定です。（詳しくはP1をご覧ください。）

☆（社）南相馬農地再生協議会は、6月初めからビニールハウスの設置・電気工事を行うとともに、乾燥機・粗選機・播種機が導入され、すべて収穫に間に合わせることができました。

6/21から菜種の収穫作業を開始し、収穫後、さっそく乾燥機での乾燥作業と粗選機による選別作業、袋詰めを行いました。今年度の収量は約9トン（昨年は約7トン）です。7月中旬、今年度の初搾りを開始し、さらにマヨネーズ生産の準備にも入りました。7月末～8月上旬には、新菜種による「油菜ちゃん」「油菜マヨ」の発売ができます。皆様方のより一層のご愛顧をお願いいたします。昨年度の播種面積は約17.5haでした。今年度は多くの農家から菜種播種に向け農地を預けたい旨の申し出があり、倍増の見込みです。昨年度は、準備不足・播種遅れから栽培不良面積を多く出しました。今年度はその失敗を繰り返さないように、基本的な農地の草刈り、耕起作業を8月から行い、また購入したトラクターの有効活用を行いながら準備に入る予定です。

**今年も9月27日(日)に「秋の菜種まき会」を開催します。**（チエル救事務所に参加申し込みをお願いします。）皆様のご参加をお待ちいたします。

☆えこえね南相馬が進めている「半農半エネ」8事業は、5月に4事業、6月に3事業（1事業は3月末に完成）が農業委員会から認可が下り、全て工事に入りました。9月には全て完工できる見込みであり、9/27の種まき会にはお披露目できると考えています。

☆震災・福島第1原発事故以降、4年4ヶ月が経過しました。南相馬市内の現状（人口）を数字でお知らせします。まだまだ、復旧・復興にはほど遠い状況です。

■2011年3月11日時点の人口71,561名の推移（2015年5月末現在）

区分	人数	内訳
市内居住者	47,268名	居住者、市内仮設・借上げ住宅入居者（8,182名）
市外避難者	11,558名	小高区4,821名 鹿島区536名 原町区6,201名
その他	12,735名	死亡、転出、所在不明
合計	71,561名	2011年3月11日震災時人口

## 第 10 期 南相馬市・浪江町放射線量測定のご案内(参加者募集!!)

(神谷)

2011年6月から始めた、生活圏の空間線量率測定と汚染マップの作製は、年2回(春・秋)実施し、今回で、南相馬市は10回目、浪江町は6回目となります。汚染マップは、南相馬市役所・浪江町役場を通じて各行政機関へ配布、とどけ鳥事務所を通じて南相馬市内全ての仮設住宅集会場・ホテル・浴場・スーパー・商店等、約160ヶ所へ配布し掲示されています。この汚染マップの存在は多くの市民に知れ渡り、いたるところで目に触れるチャンスがあり、多くの感謝の言葉をいただいています。

この4年間の測定結果をみると、南相馬市内の生活空間の放射線量は、自然減衰率以上に大幅に低下している事が明らかになりましたが、浪江町の放射線量は依然として高く、まだまだ帰還には程遠い状況です。今後も定期的な測定を実施し、放射線量の推移を見守って行く必要があります。測定は、南相馬市民の方々と一緒にいきますので、現地住民の震災当時の状況、その後の推移、現在の状況、本音の意見など、生の声を聞かせていただくことができます。また、震災・原発事故以降4年半が経過し、変わりゆく地震・津波被災地、変わらず取り残され朽ちてゆく原発被災地の現状を、自らの目で確認することができます。測定は、福島県浜通りの阿武隈山系を背景にした豊かな自然環境の中で、春は咲き誇る桜を、秋には南相馬市内全ての川に遡上する秋鮭も見学することができます。

第10期(第20次、第21次)秋の測定活動を、下記の要項で開催いたします。

- ・第20次測定隊 2015年10月16日(金)～19日(月)
- ・第21次測定隊 2015年10月23日(金)～26日(月)

(いずれも、1日目 往路・現地集合 2・3日目 測定活動、4日目 現地視察・復路)  
詳細は、同封の「第10期 南相馬放射線量測定プロジェクトのご案内」のチラシをご覧の上、チェル救事務所にお申し込みください。日本各地の皆様のご参加をお待ちしています。

### 「チェルノブイリの小児病院の子ども達に粉ミルクを届けたい！」

#### READY FOR キャンペーン 最終報告(兼松 真梨子)

昨年10月に開始した「READY FOR 粉ミルクキャンペーン」は、目標金額50万円を何とか達成し、今年の1月、見事プロジェクトは成功しました。その後、決済などの事務手続きを終え、5月8日に無事に寄付金が振り込まれました。手数料などを差し引いて、428,218円の支援金を

支援総額	514,000円
決済完了総額	511,000円
システム手数料	▲ 82,782円
差引合計	428,218円

をいただくことができました！この金額を現地へ送るべく、現在、人道支援問題委員会の許可を待っているところです。ドンチェヴァさんのお話では8月中には許可が下りる見通しです。これでまた救われる子ども達がいることを心から願っています。このキャンペーンをスタートしてから早10ヶ月。情報を収集したり広報したりと大変なこともありましたが、先日このキャンペーンに支援して下さった方から会員の申込みがあり、とても嬉しい気持ちになりました。やはり、一人でも多くの方にまずは知っていただくことの重要さを、改めて感じた瞬間です。そして、支援して下さる方に、ご寄附がどのように役立つのか見えやすくすることも、大切だと思いました。今回の



READY FORで、広報についても少し勉強になりましたので、またこの経験を活かして今後の寄付集めに貢献できたらいいなと思っています(とは言っても、しばらくはお休みしますので復帰後の話ですが…)。

最後に改めて、ご支援・ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました！

# 通常総会 & チェル救デー開催



6月13日、ウィルあいちにて「通常総会&チェル救デー」が開催されました。その2か月前、年々減ってきている総会の出席者の減少に歯止めをかけるにはどうすればいいのか、運営委員会で話し合いました。そして正会員の方や活動に参加された方たちへのラブレター作戦を行ってみました。その成果なのか、いつもより多くの方の参加をいただき、例年にくらべてにぎやかな総会となりました。

ご出席くださった皆さま、ありがとうございました。

今年は理事・監査の改選の年で、理事12名全員と監査が再任、理事長も原さんの再任となりました。お馴染みのメンバーではありますが(-\_-;)、引き続きご支援よろしく願いいたします。

2015年度は、現在のチェルノブイリの被災者や被災地を「30年後のフクシマ!?!」と捉え、再度見つめなおし、彼らが私たちに伝えてきたことをフクシマへ発信していきます。

チェル救デーでは、まず「4月ウクライナ訪問報告(戸村さん)」「南相馬報告(神谷さん)」「現在の福島原発について(河田さん)」のお話がありました。ウクライナの報告では、紛争状態が長期化しているウクライナで、チェルノブイリ被災者の厳しい現状が伝えられました。軍事費捻出のため弱者へのしわ寄せは、いつの時代、どの国においても同じことです。4月26日のチェルノブイリ祈念式典のあと、行政に詰め寄る被災者たちを写した写真は、身につまされる思いでした。理事長の原さんから、改めてチェルノブイリ被災者(とりわけ事故処理作業員)への支援を呼びかける言葉が、会の最後にありました。

交流会では、皆さんとゆっくりお話をすることができました。原発・福島・チェルノブイリ…、皆さんそれぞれの思いで、チェル救に関わってくださっていることに心動かされました。また測定に関する要望など、率直なご意見もいただき、さっそく運営委員会での議題にもなりました。



今回は、南相馬の小高商業高校生が企画し商品化された、かぼちゃのお菓子をご用意し、みなさんに召し上がってもらいました。そして「油菜ちゃん」「相馬野馬追」のタオルなども販売し、南相馬尽くしとなりました。

来年の総会も、支援活動について皆さんと熱く意見を交わせたらいいなと思います。お一人でも多くの方にお会いし、理解を深める場にしたいと思います。  
(市原 佳代)

## ----- この国は何処へ行くのか -----

7月16日、国会は通称「安全保障法案」を野党欠席のまま、与党自民党と公明党・次世代の党だけで、衆議院を通過させた。骨格となる集団的自衛権について、憲法の専門家や元法制局長官らが「憲法違反」と批判し、国民の多くが納得しないまま国会での多数決で強行採決するという暴挙は、この国の民主主義の根幹を揺るがすものである。福島原発事故を経験し、原発反対の意見が多数であるにもかかわらず原発再稼働に突き進むのも、民意を無視する政府の姿勢である。法治国家としてのこの国のこれからが問われている今、我々は何をすべきなのか。

### 60年安保反対闘争と私

1960年6月15日、大学生の私は、国会議事堂前にいた。この日、東大生の樺美智子さんが警官隊との衝突で亡くなった。生物学を学びただけで大学進学した当時の私は、全くのノンポリで政治には関心がなかった。しかしその1ヶ月前の5月19日、日米安保条約改定をめぐる衆議院特別委員会で、新安保条約に反対・抵抗する野党を、政府自民党は国会に警官隊を導入して排除し、強行採決して大きなニュースになっていた。当時、私が受けていた物理学の授業の担当は、のちにノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎教授で、学長でもあった。彼の授業は分からないながらも面白く、毎回大好きな科目であった。警官隊が国会に突入した翌週、朝永学長は全学に広報した。「諸君、今、この国の民主主義は存亡の危機にある。どうしたら良いか、諸君は自分の頭で考えなさい。」

そして、大学は一週間の休講となった。右も左もわからないまま、私は学生自治会の主催するデモ隊に加わり、国会デモに出かけた。昼はデモ、夜は新宿駅で寝る、といった日々が続いた。毎日、何万人ものデモ隊が全国から集まり、国会議事堂を取り巻いた。そうした中、私は否応なしに「国家とは何か、政治とは何か、民主主義とは何か、学問は何かのためにあるのか」といった疑問を自問自答しつつ日々を送った。連日の安保反対の声に、岸信介首相は「声なき声は新安保条約を支持している」とうそぶいた。事前にアメリカと新安保条約を約束した岸首相は衆議院で強行採決し、自然成立させたのちに辞任した。私は再び研究の世界に埋没したが「学問とは何か」との問いは、その後も心から離れることはなかった。

### 60年安保と集団的自衛権

第二次世界大戦の敗戦国日本にとって、アメリカは戦勝国であり、戦後日本は半ば植民地として機能した。朝鮮戦争でアメリカの手足となり、軍事物資調達で経済成長を遂げたあとも、東西冷戦後の国際情勢の中でアメリカとの関係はますます強化され、アメリカの核の傘のもとでの経済成長路線は続いた。非核三原則「核を持たず、作らず、持ち込ませず」を唱えて、佐藤栄作首相がノーベル平和賞をもらいながら、「沖縄や横田基地に、核兵器があるのは誰もが知っている」という矛盾を、国民は平気で許してきた。米ソ冷戦は、アメリカと日本の支配層にとって同盟強化の格好の手段であった。60年安保条約改定の骨格は、「それまで米軍が日本の周辺海域だけにとどめてきた軍事行動を、環太平洋全域に拡大する」というものであった。今、安倍政権の集団的自衛権は、「世界のどこでも、米軍と共同の軍事作戦を可能にする」という点で、なんと60年当時の状況と似ている事か。「戦後レジームからの脱却」を掲げる安倍首相だが、内実は戦後一貫してきた日米同盟の更なる強化でしかない。沖縄を例にとるまでもなく、政府はこの国を敗戦国のままに固定化し、真の国家としての独立を妨げているとしか見えない。それは、落日の影がさしてきたアメリカにとって、最も好都合な選択である。尊王攘夷を掲げて明治維新を起こし、幕府を倒した明治政府が、一転して脱亜入欧を唱えてアジアを侵略した事実も含め、この国の体質は歴史的に見て全く変わっていない。安倍首相が岸信介首相の孫であることは偶然ではない。

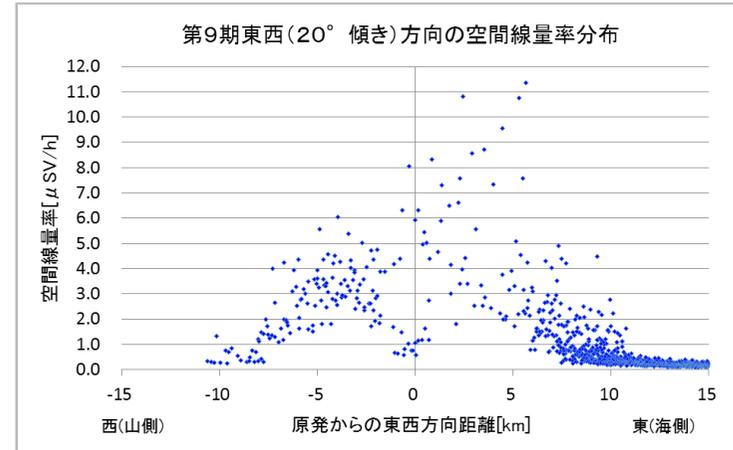
真の民主主義国「日本」を、これから誰が作るのか。 (2015年7月17日 河田)

## 第9期(第18次・19次) 空間線量率測定結果 続報

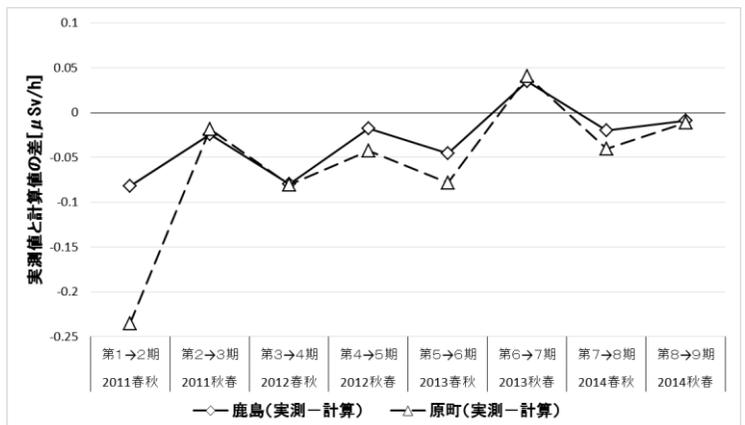
池田 光司

4月に行われた第9期の空間線量率(空間の放射能の強さ)の測定結果を、分析データを交えて少し詳しく報告します。下のグラフは、今回測定された各地点の空間線量率を、福島第一原発

事故当時放射能を含んだ雲が流れたと考えられる所からの距離との関係で整理したものです。グラフの中心(横軸0の所)が雲の中心、左右に離れるにしたがって雲から離れていることを示します。雲の中心から離れるにしたがって空間線量率が下がる傾向は、第1期の測定から変わっていません。今回のグラフからは、中心から約10km以内では、まだ $1\mu\text{Sv/h}$ (自然放射能の10倍程度)を超える地点が数多く存在することが分かります。中心付近では $10\mu\text{Sv/h}$ を超える地点も存在します。これら空間線量率の高い地点は、主に浪江町の山間部になります。一方、グラフの右側、11kmあたりを超えた所ではすべての地点が $0.5\mu\text{Sv/h}$ を下回り、雲の中心から離れて海に近づくほど空間線量率が低くなっていることが分かります。また、5km以内の中心に近い部分では $0.6\mu\text{Sv/h}\sim 11.4\mu\text{Sv/h}$ と、地点によるバラツキが非常に大きくなっていますが、この理由については、さらにデータを細かく視て調べる必要があります。以上が、今回測定した空間線量率分布の全体的な傾向です。



右のグラフは、第1期から測定している地点の空間線量率(測定値)が、各期(半年間)でどの位変化したかを、放射性セシウムの物理的半減期(計算値)との差で見えています。グラフの0.00(横線)が、ちょうど物理的半減期と同じ割合で空間線量率が下がったことを示します。その線より下側では、物理的半減期より多く下がったこと(雨などの環境による効果と言われています)を示し、逆に線より上側では物理的半減期で計算されるほどに空間線量率は下がらなかったことを示します(「第6→第7期」がなぜそうなったのかは不明です)。グラフの一番右側の「第8期→第9期」のデータは、ほぼ0.00の線近くにあり、物理的半減期とほぼ同じ割合の下がり方になってきていることが分かります。逆に言うと、環境による効果はなくなってきていると言えます。また、先回のポーシェでは、空間線量率が自然放射能程度まで低くなってきた地点も多くなってきたことを報告しました。ただ、そのような地区でも、土壌からは数百 $\text{Bq/kg}$ を超える放射性セシウムが検出されることもあり、土の取扱いは、まだ注意を要する状況です。



環境による効果はなくなってきていると言えます。また、先回のポーシェでは、空間線量率が自然放射能程度まで低くなってきた地点も多くなってきたことを報告しました。ただ、そのような地区でも、土壌からは数百 $\text{Bq/kg}$ を超える放射性セシウムが検出されることもあり、土の取扱いは、まだ注意を要する状況です。

2011年3月11日の東日本大震災の被害は、地震・津波に加え、東京電力福島第一原発の爆発事故によって、長きにわたる放射能汚染との戦いを余儀なくされた。避難せず地元に残った住民の被曝を低減するために、チェルノブイリ救援・中部が設置した「放射能測定センター・南相馬」は、地元住民のボランティアを中心に2012年6月から本格的に活動を開始した。住民が持ち寄る野菜や土壌、井戸水などの測定を無償で行い、これまで8,200検体以上を測定した。ほとんどは南相馬市民の依頼であり、住民の放射能に対する関心の高さを表している。

今回、この測定結果をブックレットにし、南相馬市民が自ら被曝を低減するための手立てにする(約70ページ)。

タイトル【放射能とどう向き合うか】

- (1) 測定検体の変遷
- (2) 野菜の汚染(年度別変化)
- (3) 果樹・果物の汚染
- (4) 山菜の汚染
- (5) キノコ類の汚染
- (6) 魚介類の汚染
- (7) 野生動物の汚染
- (8) コメの汚染
- (9) ナタネとなたね油の汚染
- (10) 水田土壌の汚染(南相馬市内の各地域別)
- (11) 畑土壌の汚染(南相馬市内の各地域別)
- (12) 河川の汚染
- (13) 南相馬市と浪江町の空間線量率測定とその分析



空間線量率測定は、市内・町内全域を500mメッシュに区画、南相馬市と浪江町合わせた約1,400箇所を半年おきに測定し、その変化を見た貴重なデータである。その変化から何が見えてくるのか。乞うご期待!!

## <なたねに含まれる放射線量測定検査準備のようす>



菜種を上部のジョウゴに投入すると、下のビーカーになたね油、右側からは菜種のしぼり滓が出てきます。



搾油機から出てくる『油滓』です。本来は非常に優れた肥料になりますが、放射性物質が多少含まれてしまいます。



放射性物質は左の写真の『油滓』に移行します。更にろ過して澱(おり)を除去すると、油には放射性セシウムが全く含まれません。このような工程と測定管理により、『油菜ちゃん』は作られます。



ナージャ・ルーシェヴァ  
[1952 - 1969]画

## プロジェクト「母親たちの希望の光」

「チェルノブイリの人質たち」基金 理事 エヴゲーニヤ・ドンチェヴァ

福島原発事故 5 周年とチェルノブイリ原発事故 30 周年に向けての、私たち「チェルノブイリの人質たち」基金の新しいプロジェクトは、「母親たちの希望の光」と名づけられました。

チェルノブイリ事故後の数年、励ましと同情の手紙をジトーミルに送り、支援の手をさしのべてくれたのは、日本の母親達でした。彼女達は、ウクライナの子供たちの将来に心を痛めていました。そして、日本からの最初の人道支援は、乳児のための粉ミルクでした。私達は、遠い国からの友情と配慮を感じたのですが、同じような悲劇が日本国民にも起こるなどは、考えたこともありませんでした。今日、私達はポレーシェ地方の女性達に、「原発事故後の数年間の生活について」「非汚染地域への移住をどのように受け止めたか」「新たな場所でどのように暮らし始めることができたか」について語ってくださいと呼びかけます。このキャンペーンによって、私達は原発事故の影響が引き起こす問題に、ジトーミル州の住民の方々の注意を促したいと思います。年月は過ぎ、今になって初めて、「一つ一つの家庭がどんな困難にぶつかり得るのか」「年を経てどんな病気が現れてくるのか」そして「自分と自分の子ども達を、早い時期にどう危険から守れば良いのか」について、理解できるのです。

チェルノブイリ事故の結果、最も大きな被害を受けたジトーミル州の住民達の経験は、遠い日本の友人達にとってかけがえのないものです。私達は、自分達の助言・勧告、そして、単に私達がいかにこの困難な年月を生きてきたかについての物語を、分かち合いたいと思っています。

州の新聞『ジトーミル州』が、このプロジェクトの情報提供スポンサーになり、ウクライナの母親達の手紙を掲載します。ジャーナリストによる個々の手紙へのコメントとまとめの記事は、ひと月に一回載ります。州ラジオ局も、自分達の話伝える用意がある、個々の移住者達の運命についての番組を、定期的に制作することに同意しました。

ウクライナの母親達の手紙を出版することも、私達は計画しています。そして、その冊子を日本にお送りして、私達のパートナーである「チェルノブイリ救援・中部」の方々が手紙を翻訳し、ポレーシェの住民達の物語の新しい本を出版されることを期待しています。私達は、そのようにして日本の母親の誰かが、励ましと幸せな将来への希望の言葉を見つけられることを、確信しています。私達は皆同じ惑星の住民であり、人類は一つの大きな家族です。他の国民の苦しみと悲劇が、わが事のように辛く受け止められるのもそのためです。日本も、ウクライナと同様、原子力の平和利用の負の面を

知ることになりました。それで私達は、力を合わせて原子の災厄がもたらす影響に立ち向かおうとしているのです。

私は地球儀を胸に抱きしめた  
陸と海の上に私は一人  
私の腕の中で大陸が静かにささやく  
「大事にしてね」…と。

緑に彩られた森と谷間が私に言う  
「優しくしてね。私たちを踏みついたり、  
火をつけたりしないで、  
冬にも夏にも大事にして」…と。

鳥も魚も、皆の声が聞こえる  
「お願いだ、人間よ、  
約束してくれ、嘘をつかないで、  
兄のように私たちを守ってくれ」…と。  
(E.シクロフスキ)

Я обнял глобус – шар земной.  
Один – над сушей и водой.  
В руках моих материки  
Мне тихо шепчут: «Береги».  
В зеленой краске лес и дол  
Мне говорят: «Будь с нами добр.  
Не растопчи нас, и не жги,  
Зимой и летом береги».  
И птиц, и рыб я слышу всех:  
«Тебя мы просим, человек,  
Ты обещаешь нам и не лги,  
Как старший брат нас береги».

## ～課題も多いが深まる交流～

売り上げ不振に苦しむ福島の米農家。私たちにできることは？

(名古屋生活クラブ 森田)

震災後もお米を真摯に作り続けてきた、福島県郡山の有機農家の中村和夫さん。2014年度産の米の放射能測定結果は、セシウム134は不検出、セシウム137は検出限界値以下のわずかな検出(白米:1.2Bq/kg 玄米:2.7Bq/kg)にもかかわらず、4年経ったいまも売り上げは半分に落ちたまま。中村さんの周りでも、有機農業を諦めようかと悩む生産者もいます。

一方、被災地から離れた愛知では、小さいお子さんがいる方や食の安心安全への意識が高い方ほど、放射能の測定結果にも厳しい傾向があり、事前に行ったアンケートでも、「放射能への漠然とした不安がある」「産地で選ぶ(福島産・東日本産を避ける)」といった声が多く見られました。

こうした福島の厳しい現状を受け、「被災地の生産者を支えるためにできること」をテーマに、「中村さんのお米カフェ」という企画が、6月6日ウィルあいちにて開催されることになりました。



＜中村さん&箕口さん対談の様子(創作スタジオ)＞

### 放射能の問題を東北の生産者だけに押し付けない！

これまでも中村さんは、「福島の現状を伝え続けることが私の使命」と、震災後幾度も名古屋に足を運び、福島の現状とその思いを伝えてきてくれました。今回の企画は、中村さんのお話を聞くだけではなく、「消費者・流通者として、中村さんをはじめとする東北の農水産物の生産者に対して、何ができるのかを一緒に考えよう！」という主旨です。

お米カフェ実行委員会に加わったのは、「名古屋生活クラブたねまきの会」「わっぱん(わっぱの会)」「チェルノブイリ救援・中部」「STAなみだの分かちあい～アジア～」「半歩プロジェクト」「オアシス21オーガニックファーマーズ朝市村」。そして開催するにあたり、有機農業系の団体や自然食品の宅配団体など、さまざまなところに協賛を呼び掛け、たくさんの賛同とアドバイスをいただきました。違う立場や活動が続ける団体が関わることで、いろんな意味でイベントの幅が広がりました。

「いろんな支援をされている方や志を形にして、社会に貢献されている方の話が聞けてとても刺激になった！」(参加者の声)

イベントは、中村さんの講演「福島の米農家の現状・・・それでもお米を作り続ける理由・・・」を皮切りに、3つの分科会の後、河田先生の講演「放射能汚染環境での暮らしどこまで不安？どこから安心？」へと続き、最後は中村さんのお米で作ったおにぎりの大試食会。また南相馬からはなんと！相馬農業高校の高校生2名が来てくれ、「希望の菜種油 油菜ちゃん」という渾身の発表をしてくれました。そして、高校生交流企画も2回戦とハードなスケジュールをこなして大活躍。当日、メイン会場のセミナールームは会場いっぱいになりました。福島の現状を聞こうと駆け付けた消費者、放射能に対する河田先生の放射能の講演を聞きに来た若いお母さん、被災地にできることのヒントを得に来たお父さん、被災地の高校生との交流企画に参加しに来た愛知県内の高校生、お米カフェに賛同していただいた関係者・・・などなど。愛知県内だけでなく、岐阜・長野・富山、そして福島からもわざわざ駆け付けてくれました。



高校生交流企画の様子(視聴覚ルーム)

イベント全体に織り込まれた「参加賛同団体一言コメントタイム」では、報告者だけでなく、様々な立場からの発言を聞くことができ、「小さいけど意味のある一歩を踏み出した」・・・そんなイベントになりました。そうです。まだまだ始まったばかりです。

# 2014年度 活動計算書（会計報告）

特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部  
 （特定非営利活動に係る事業会計）

（単位：円）

自 2014年 4月 1日 至 2015年 3月31日

	科目		金額
	【経常収益】		
1.	受取会費	正会員受取会費 賛助会員受取会費	117,000 699,000
2.	受取寄付金	ミルク チェルノブイリ被災者支援 福島原発被災支援 一般寄付 福島・菜の花プロジェクト	372,472 599,000 236,500 5,625,704 2,508,000
3.	受取助成金	つがいのちとくらし再生プログラム第5回新規助成 川口(自立を支援する会)第9回「かけはし」支援基金 三井物産環境基金2014年度活動助成(初年度)	5,020,000 100,000 2,000,000
4.	事業収益	宗教法人真如苑 福島支援事業 イベント関連事業	1,410,000 1,013,520 93,000
5.	その他の収益	啓発事業 受取利息 雑収益	180,350 1,498 157,660
	経常収益 計		20,133,704
	【経常費用】		
1.	事業費		
(1)	人件費	給料手当・手当	912,000
(2)	その他経費	業務委託費 支援金 印刷製本費 諸謝金 会議費 旅費交通費 通信費 荷造運搬 消耗品費 地代家賃 水道光熱費 賃借料 減価償却費 新聞図書費 保険料 諸会費 支払手数料 雑費 為替差損	2,026,718 9,199,665 942,160 27,841 8,810 3,246,500 188,622 269,504 116,038 1,152,600 112,172 23,800 738,681 111,692 41,070 85,500 47,659 395,633 4,698
	事業費 計		18,739,363
2.	管理費		
(1)	人件費	給料手当 法定福利費	2,041,180 5,781
(2)	その他経費	通信費 荷造運賃 水道光熱費 旅費交通費 会議費 消耗品費 修繕費 地代家賃 保険料 租税公課 諸会費 支払手数料 減価償却費 雑費	142,078 36,205 5,274 5,420 11,724 313,166 24,344 676,080 4,290 1,650 33,000 42,253 13,125 459,100
	管理費 計		1,767,709
	経常費用 計		3,814,670
	当期正味財産増減額		23,466,033
	前期繰越正味財産額		▲ 3,332,329
	次期繰越正味財産額		10,866,096
			7,533,767

※その他の事業は実施していません。

2014年度 財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）による。

- (1) 固定資産の減価償却の方法  
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をする。
- (2) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込経理方式による。

2. 事業費の内訳

事業費の区分は以下の通りです。

(単位：円)

科目	医療機関支援事業	粉ミルク支援事業	被災者団体支援事業	クリスマスカード事業	業務委託事業	通信誌発行事業	イベント関連事業	派遣事業	福島原発被災支援事業	啓発事業
【経常収益】										
受取寄付金		372,472	599,000						2,744,500	
受取助成金				100,000					8,430,000	
事業収益							93,000		1,013,520	180,350
その他の収益							3,100		87,350	
経常収益 計	0	372,472	599,000	100,000	0	0	96,100	0	12,275,370	180,350
【事業費】										
(1) 人件費 給料手当・日当								300,000	612,000	
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	300,000	612,000	0
(2) その他経費										
業務委託費					520,318				1,506,400	
支援金	850,000	338,800	1,100,001						6,910,864	
印刷製本費						208,400			601,560	132,200
諸謝金							27,841			
会議費							8,810			
旅費交通費				41,600			71,070	457,470	2,664,520	11,840
通信費				26,828		64,289	85,945		11,560	
荷造運搬費				53,400		207,842	1,728		6,534	
消耗品費		4,608		22,569		13,135	58,358		5,892	11,476
地代家賃									1,152,600	
水道光熱費									112,172	
貸借料				6,000			17,800			
減価償却費									738,681	
新聞図書費										111,692
保険料								26,070	15,000	
諸会費							13,000		72,500	
支払手数料	3,666	9,056	11,695	68			173	540	22,461	
雑費							3,000	515	392,118	
為替差損								4,698		
その他経費計	853,666	352,464	1,111,696	150,465	520,318	493,666	287,725	489,293	14,212,862	267,208
事業費計	853,666	352,464	1,111,696	150,465	520,318	493,666	287,725	789,293	14,824,862	267,208
経常収益－事業費	▲ 853,666	20,008	▲ 512,696	▲ 50,465	▲ 520,318	▲ 493,666	▲ 191,625	▲ 789,293	▲ 2,549,492	▲ 86,858

第16期（2014年4月1日～2015年3月31日）の会計報告を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明します。

平成 27年 5月 18日 監査人 神野美知江

昨年度と比較すると、会費と助成金・事業収益は増えましたが、寄付金は100万円ほど減りました。収益に占める自己資金比率が57%と、半分近くを助成金に頼っていることがわかります。助成金は大きな額になりますので、今後も獲得していかなくてはならないものですが、自己資金の獲得も課題のひとつと言えます。

事業ごとの収支でみると、ほぼすべてがマイナスで、「指定なし」の一般寄付と前年度の繰越金から事業費を賅っています。今後は、指定寄付も増やしていくことが課題です。日頃、会員の皆様や支援者の皆様に、寄付金などの活動に役立っているかを、わかりやすく示していくことも大事だと感じました。

日頃のみなさまの賛同に感謝するとともに、一層のご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。

会計係 兼松真梨子

## 事務局便り

8 月半ばで事務局スタッフの兼松さんが産休に入る。彼女は 2011 年 2 月にチェルノブイリの事務局スタッフになった。入って 2 週間も経たぬうちに、3・11 東日本大震災、東電福島第一原発事故。

当時、事務局は鳴りやまぬ電話の対応に追われていた。入って間もない兼松さんだったが、臆することなく積極的にそれらをこなした。それからの 4 年間、チェルノブイリ唯一のできる！若手ホープとして活動に尽力してくれた。チェルノブイリにとって、彼女の休暇入りは痛手だが、何よりも大切な大仕事待ち受けている。心身ともにベストコンディションで、待望のベビー誕生を迎えてほしい。ベビーといえは、強行採決抗議に駆けつけた国会議事堂前には、たくさんのベビーカーを引いた若い母親や幼子の手を引いた父親、家族の姿があった。

守るべきものがある。戦争法案は絶対に認められない。

(山盛)

## スタディツアー2016 参加者募集!!

来年 (2016 年) 4 月に、チェルノブイリ原発事故後、30 周年を迎えるウクライナ。現地では今、日本とウクライナの母親達が将来への希望の言葉を見つかけられるように、「母親たちの希望の光」というプロジェクトが立ち上がっています。『…同じような悲劇が日本国民にも起こるなどとは考えたこともありませんでした。』『…私達は皆同じ惑星の住民であり、人類は一つの大きな家族です。』『…日本も、ウクライナと同様、原子力の平和利用の負の面を知ることになりました。』(P8 参照)



あなたも、非核を祈念して追悼集会に参加しませんか？ そして、現地ウクライナの皆さんと直接会って、お話してみませんか？

第 1 次募集は 10 月末日の締切りです。申込用紙に記入後、事務局まで郵送 (または Fax) して参加予約をお願いします。定員になり次第、締め切ります (同封のチラシを参照してください)。(美)

## 編集後記

☆人づてで「8 月に東名高速道や浜岡原発が打撃を受ける地震が来る」という高次元からのお告げ (怪しげ) の話を聞く。物流が止まるらしい (ホントかなあ…)。まずは備え、お菓子購入。(佳)

☆美味しかった「〇〇牧場」という名のステーキ屋さんを車のナビで探し出し、お目当てのレストランか！と大喜び。やっと辿り着いたら、そこはホントの牧場 (牛舎)。動くし、臭うし、眼が合うし…。優れた性能の GPS 測定器とは大違い、車のナビは当てにならないと大笑い。(美)

☆2008 年秋の「リーマンショック」から 7 年が経過し、今再び「世界金融危機」が叫ばれている。ギリシャをはじめとする南欧諸国で、アイスランドの「鍋とフライパン革命」が再現されるのか、それとも今まで通り、「IMF (国際通貨基金)・ECB (欧州中央銀行)・FRB (米連銀)」の (「彼ら」が無から作り出す) バーチャルなマネーを借り入れて、更に「国民の借金地獄」と「国家の資産略奪」という罠に落ちていくのか、それがこの秋の焦点となっている。

「彼ら」はまた、日本に「戦争法案」の強行採決を強要し、世界戦争と世界恐慌を引き起こして延命を図ろうとしている。「彼ら」の存在に日本人が気づき、「NO!」を突き付けることができるかどうか、そこに「日本の独立」がかかっている。

(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「エープリント」

TEL・FAX (052) 871-9473